

「国家」・「愛国」・「近代」

孫安石・大里浩秋編著 / A5判360頁 / 本体4500円＋税

「第Ⅰ部 中国人留学生と『国家』の発見」では、清国留学生会館などの諸団体の活動や中国人留学生の日記を通して、彼らがどのように「国家」という概念を認識し、中国人としてのアイデンティティを確立していったのかを検討する。

「第Ⅱ部 中国人留学生と文学——『愛国』を求めて」では、張資平、郁達夫など日本留学経験を持つ作家の作品などから、「国家」と「愛国」の問題を取り上げる。

「第Ⅲ部 戦争と混乱の狭間でみた『近代』」では、中国人留学生として受け入れられていた彼らが、満洲国建国以降、もう一つの国家のアイデンティティを持つよう強制された苦悩、そして一九四九年の中華人民共和国建設以降においても、引き続き国家（国民党か、共産党か）と愛国の選択に悩まされたことを取り上げる。

目次

第Ⅰ部 中国人留学生と「国家」の発見
 清国留学生会館研究初探——「国家」と「愛国」のはざま（孫安石）
 清末中国人日本留学生の初期活動について——勵志会と訳書彙編社を中心に（郭夢珏）
 中国人留学生の日記から読み取る日常生活——下宿屋という都市空間を中心に（樂殿武）

第Ⅱ部 中国人留学生と文学——「愛国」を求めて
 余計者としての留日学生——張資平「一班冗員的生活」を中心に（林麗婷）
 留学と愛国、そして詩——聞一多と鄭伯奇・穆木天（鄧捷）
 中国人留学生が語る「日本」——郁達夫「帰航」とイギリス排日小説『キモノ』（Kimono）（中村みどり）
 中華学芸社とその機関誌『学芸』について（潘吉玲）

第Ⅲ部 戦争と混乱の狭間でみた「近代」
 「満洲国留日学生会」の諸活動とその実相（見城佛治）
 「対支文化事業」における「特別講習会」——東京帝国大学農学部事例を中心に（三村達也）
 一九五〇年代半ばの中国留日学生と日本国費留学制度再開（川島真）
 一九五〇・六〇年代の中国留日同学会と華僑社会——陳学全さんに聞く（大里浩秋）

切り取り線

注文書	
帖合・書店名	
ご担当者	
冊	申込数
文	注
東方書店	孫安石・大里浩秋編著
神奈川大学人文学研究叢書42 中国人留学生と「国家」・「愛国」・「近代」	
販売条件	ISBN978-4-497-21907-7 C3021
[885c]	
本体 4500 円	
注文日	年 月 日

東方書店

営業電話03-3937-0300 / FAX.03-3937-0955 (ご注文はこちらまで)

ホームページ【中国・本の情報館】 <https://www.toho-shoten.co.jp>